

昭和51年6月21日第三種郵便物認可 第48巻 第6号  
平成21年5月15日発行 (毎月1回15日発行)

ISSN 0913-2708

<http://www.jiima.or.jp/>

# JIMM

〔月刊〕

**Journal of  
Image &  
Information  
Management**

〔海外情報〕

## 韓国政府のタイムスタンプ事業と 韓国文書電子化保存の動向

レポート AIIM Expo 2009 & 米国業界視察旅行

JIIMAセミナー2009 ご案内

統合文書情報マネジメント (ECM) への進化

June  
2009

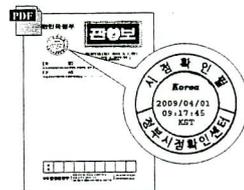
# 6

# IM

〔月刊〕

2009-6月号 通巻第461号

- 10 ..... 【海外情報】  
韓国政府のタイムスタンプ事業と韓国文書電子化保存の動向  
アマノタイムビジネス株式会社 市川 桂介
- 15 ..... 検索サービスとフェアユース  
第2回 画像検索とフェアユース  
国際大学 GLOCOM 城所 岩生
- 18 ..... 色、いろいろ  
第2回 青  
(株)PFU 白井 信昭
- 19 ..... 【連載寄稿】住のトレーサビリティⅢ  
第6回 何を1号完成図として残すのか  
近鉄住宅管理株式会社 山本 隆彦
- 24 ..... AIIM Expo 2009 & 米国業界視察旅行  
AIIM & ON DEMAND SHOW2009視察レポート  
株式会社ハイパーギア 武田 英一/天田 敦  
ロサンゼルス企業訪問視察レポート  
AIIM ツアー 副団長 梅原 寿夫
- 28 ..... 報告  
エレクトロニックイメージング用語 JIS Z 6015 改正案の答申  
JIS・JIIMA標準化委員会 前委員長 鳥海 史郎
- 30 ..... 【Skill up series】スキャナ編  
第10回 スキャニング時、帳票の「1回通し」で可能なこと  
富士フイルム株式会社 土橋 直樹
- 32 ..... 2級合格おめでとう  
合格者からのひと言



- 14 ..... ■コラム 久保走一の春夏秋冬 第6回 地震と情報
- 23 ..... ■新製品
  - imageFORMULA DR-9050C/DR-6050C
  - imageFORMULA DR-6010C
  - NETCOM NCE08
- 36 ..... ■ニュース・アラカルト
  - シンポジウム「安全な電子記録のために」開催
  - JIIMA 新入会員交流会開催
  - 各社、人事異動・新役員体制
  - 鳥海史郎さんJIS委員会退任
  - 日本アーカイブズ学会2009年度大会開催
  - 社会保険庁「厚生年金保険被保険者名簿の電子画像データ等作成業務」入札説明会にJIIMA会員ら多数参加
  - 「セーフティネット貸付」のご案内
  - アンテナハウス、クセロのPDFソフトウェア事業を譲り受ける
- 38 ..... ■ JIIMA ニュース
- 40 ..... ■ IM 編集委員から
- 34 ..... ■ ご案内 JIIMA セミナー2009 「統合文書情報マネジメント (ECM) への進化」東京/大阪

広告ガイド

キヤノン電子株式会社	.....表2	システム・プランニング株式会社	.....前7
富士フイルム株式会社	.....表3	(株)ムサシ	.....前8
(株)PFU	.....表4	(株)アビックス	.....17頁
ムサシ・イメージ情報株式会社	.....前1	JIIMA ナレッジ会員のご案内	.....37頁
(株)ジェイ・アイ・エム	.....前2	(株)マイクロテック	.....後1
(株)インフォマージュ	.....前3	JIIMA 入会案内	.....後2
(株)マイクロサービスセンター	.....前4	コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社	.....後3
エイチ・エス写真技術株式会社	.....前5	(株)国際マイクロ写真工業社	.....後4
(株)ニチマイ	.....前6	(株)れいめい	.....後4

# エレクトロニクイメージング用語 JIS Z 6015 改正案の答申

報告

JIS・JIIMA標準化委員会  
前委員長 鳥海史郎



本件は、エレクトロニクイメージング用語JIS Z 6015の改正案が2009年3月に社団法人日本規格協会に答申されましたので、ご報告するものです。今後、改正案が制定されますのでご覧ください。詳しくは、改正案の解説もご参照ください。

この用語の改正によって、デジタル化文書のJIS標準化3点セット（月刊IM2008年4月～6月号を参照）を加え、当面、デジタル化文書に関するJIS標準は、JIS Z 6017を除き、すべてが改正されました。日本の初期のデジタルIM領域の基本的な標準化が整ったこととなります。

紙文書またはマイクロフィルム文書の入力から登録、保管・保存、廃棄までの一連のデジタル化文書管理の初期段階の標準化がIT情報化時代に全国的に整ったこととなります。

【1】改正の経緯 この規格は、平成9年（1997年）にISO/CD12651:1996 Electronic imaging - Vocabularyと整合を図り、制定されたもの（以下、旧規格という）で、旧規格では、制定用語数は70語でしたが、改正案では、103語としました。

改正に際し、社団法人日本画像情報マネジメント協会（JIIMA）は、工業標準改正原案作成委員会を組織し、2008年4月から2009年2月まで審議し、JIS改正原案を作成しました。

今後、このJIS原案を主務大臣である経済産業大臣に申出し、日本工業標準調査会で審議議決され、遅くとも、2009年度内に官報に公示、改正案が制定される予定です。

【2】改正の趣旨 今回、以下に示すような背景及び目的で改正を行うこととしました。改正に当たっては、本来ISO 12651:1997を対応国際規格とすべきですが、ISOでの改正審議が遅れ、現在の国際規格を対応国際規格とするにはこの分野での技術進展と合わないので採用しないこととしました。対応国際規格の改正案は、2009年1月に新たなWorking Draftが出され、現在審議が進んでいます。

a) 背景 我が国では、インターネットあるいはEメールの普及が1995年頃から急速に進みました。これと並行してわれわれの身の回りの情報や組織の中で利・活用さ

れる文書のデジタル化（文書の電子化）も急展開しています。

このような状況で紙文書から電子化文書、電子文書などを利用したデジタル文書革命は、e-文書法など、あるいは、“公文書等の管理に関する法律”が国会に提出（平成21年3月）されるなど文書に関連した新しい法律を生み出し、オフィスにおける文書管理システムを変化させています。これらは、新しい技術革新を促し、文書に関するビジネスモデルを変化させ、より安全と安心を提供する標準化を生み出し、携わる人々に高い業務効率を与え、利益をもたらしています。今後も、文書管理におけるこのような進展と変化の継続が引き続き行われていくものと思われます。

また、複雑化する経済社会環境では、特に、新しい分野での標準を普及していく上で、標準化すべき最も基本項目の一つが、言葉の問題（用語の標準化）です。ご承知のようにIT情報化社会における技術用語、または法的用語は、変化しつつ使われており、それがある程度固まるまどきに、タイミングよく定義付けられ、標準化されることが望ましいことです。当然のことながら、JIS用語は、ある面では、その国のその社会分野での文化の程度を示し、また、技術水準を反映した重要な標準化でもあります。

b) 目的 この規格は、過去にマイクログラフィックス用語のJIS制定がこの分野の市場が成熟してから行われたことを反省し、エレクトロニクイメージング分野では、ユーザの要望に答えるべく、電子化時代の文書管理における用語の標準化を早期にJIS化するように考えてきており、この改正もその延長上にあります。国内の文書管理の新しい動き、ユーザ状況、またはISO国際規格の動向などがタイミングよく今の改正時期を促しました。

改正に当たっては、これら状況に鑑み、世界的に見て、新しい文書管理利用システム、新しい文書管理・ネットワーク技術を注視し、古く利用されていない用語は削除しました。対応国際規格とJISと整合を図ることを考慮すること以外、その用語選択の主な考え方は、

次の通りです。

- 1) “Electronic Imaging” の分野で共通に使用される用語
- 2) 制定後5年見直しまでに、使用されると予測される用語

【3】審議中に特に問題となった事項、用語 今回の改正審議中、特に問題になった主な事項、あるいは用語は、次の通りです。

- 1) 規格の名称 “エレクトロニックイメージング” について  
この用語の適当な日本語訳が見当たらず、従来通り、片仮名（英文のまま）とした。
- 2) 長期保存 歴史的文書のアーカイブおよび各種法令に従った文書の保存期間も数年から永久（不定期）までさまざまあること、国際的には「保存技術（保存メディアの種類、保存形式など）の変更を考慮しなければならなくなるほどの期間」というISO 14721における定義が用いられてきている等、長期という用語は必ずしも特定の時間的な長さに対応して用いられてはいない。このことから、本規格では時間的な長さには触れなかった。
- 3) 統合コンテンツマネジメント、ECM ネットワーク時代の新しいコンテンツ管理方法として、米国を中心に普及が進んでいる統合コンテンツマネジメントを加えた。
- 4) 文書管理と記録管理との区分 我が国では、この二つの明確な定義が見当たらないので、基本的に記録管理に関する用語は最小限に留めた。
- 5) 法的用語 原本、原本性、証拠力などの法的用語は規定しなかった。  
文書の記録および保存に関連するいくつかの法的な用語も規定するかを論議したが、法的な解釈はそれぞれの法令省令に従うべきであり、JIS用語としては取り上げなかった。
- 6) エレクトロニックイメージングの入力側の用語の整理  
電子化（scanning）、走査（scan）およびスキヤナ（scanner）等の用語に関連し、整理し、改正した。ここでは、実態に即して、電子化はscanningと理解することにした。  
また、電子化文書は、scanned documentとし、電子文書は、electronic documentとした。

### ● 原案作成委員会の構成表

改正原案作成委員会の構成表を、右に示します。

なお、JIIMAの標準化担当理事は、杉山一英氏です。

JIS Z 6015(エレクトロニックイメージング用語)改正原案作成委員会 構成表

		氏名	所属
(委員長)	○	鳥海 史郎	株式会社 鳥海ネットワークファイリング研究所
(副委員長)	○	南 裕 治	キヤノン電子 株式会社
(委員)		鈴木 晴光	経済産業省 製造産業局
		佐久間康洋	経済産業省 産業技術環境局
		朝山 恒男	財団法人 日本規格協会
		原田 久義	国立国会図書館
	○	玉置 俊平	株式会社 リコー
	○	小箱 雅彦	(高島 昌尚) 株式会社 PFU
	○	松下 義幸	株式会社 ニチマイ
	○	小林 秀行	株式会社 ジェイ・アイ・エム
	○	藤野 勤	コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社
	○	井上 孝一	コダック 株式会社
(事務局)		栗山 衛	社団法人 日本画像情報マネジメント協会
		黒川 昌信	社団法人 日本画像情報マネジメント協会

注記 ○印は、分科会委員を示す。

### 委員長からの謝辞

長期に亘り仰せつかってきましたJIIMAおよびJIS標準化委員会の委員長職を2009年3月をもちまして退任することに致しました。

標準化活動30数年は、あっという間の出来事であり、この間に紙文書、マイクロフィルム文書、そして電子化文書、電子文書の文書管理システムの全国的な標準化に携われたことは、個人的に大変に満足なものであります。

標準化委員会の委員各位、経済産業省、日本規格協会、日本画像情報マネジメント協会さらには、日本記録メディア工業会、デジタルコンテンツ協会などの関係機関各位には、大変お世話になり、ありがとうございました。

今後も引き続き、さらなる標準化委員会へのご協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

(2009.03.27)

月刊 IM 2009・6月号  
News a la Carte より

**鳥海史郎さん、お疲れさま  
JIIMAでの30年余の活動に感謝**

これまで、JIIMAの委員会で数多くの活動をしてきた鳥海史郎氏がこの度、2009年3月末をもってJIIMA標準化委員会委員長を退任した。

鳥海氏は標準化委員長を30有余年務められ、JIIMAの基礎を作ったと言っても過言ではなく、政府・民間の橋渡しをしつつ、マイクロフィルム関係の標準化、規格化に尽力し、国内外にわたって活躍された。昭和58年ごろには6つの委員会を兼務し、精力的に活動した。その間、1982年にはIMCコペンハーゲン大会 名誉・規格賞、1992年 IMCベルリン大会 名誉賞、1996年 通商産業大臣賞（標準化功労者）と数多くの賞を受賞した。

また1993年からはセミナー担当理事を2期務め、JIIMAのホームページの開設に貢献するなど標準化以外にも活躍した。

送別の会で鳥海氏は、初めて規格を手掛けることになった経緯を思い出深く語り、今後は日本のIM業界に必要な日本独自のオリジナリティを打ち出していきたいと、次期に思いを託した。今後は、歴史文書や教育に力を注ぎたいとのこと、まだまだやりたいことがあると抱負を語った。

JIIMAからは理事長、前理事長、関係者らが感謝の意を述べ、長年の功績を労った。



IM業界、日本のオリジナリティが必要、と鳥海氏